

石堤小学校いじめ防止基本方針

1 基本理念

いじめは、いじめを受けた児童の人権を侵害する行為であり、その心身の健全な成長及び人格の形成に影響を与えるのみならず、人の命に関わる重大な問題です。

したがって、いじめの防止等の対策には、「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識をもち、学校、家庭、地域、教育委員会、その他生徒の教育に関わる全ての者が連携し、いじめの問題を克服することを目指して行われなければなりません。

本校では、学校が全ての児童にとって安心・安全で、楽しく充実していると実感できる「心の居場所」となるよう指導体制の充実を図り、家庭や地域等と連携して、いじめの防止等に取り組みます。

さらに、児童自らが、いじめの問題を自分たちの問題として捉えることが大切であり、児童会によるいじめの防止等の主体的な取組を積極的に推進します。

2 いじめの防止等の対策

(1) いじめの未然防止

いじめはどの児童にも起こり得るという意識をもち、全ての児童を対象に、いじめに向かわせないための取組を行います。

児童の自主性を重んじ、いじめを自分たちの問題として捉え、いじめを生まないようにするための主体的な取組を支援し、児童一人一人のよさが発揮され、互いに支え合い、認め合う望ましい人間関係を育てます。

①児童理解と環境づくり

- ・いじめに関する校内研修を行います。
- ・基本的な生活習慣と学習規律の徹底を図ります。
- ・規範意識を醸成し、「正義が通る学校」を目指します。
- ・「いい顔・いい声・いい心」をスローガンに、共感的な人間関係を築きます。
- ・一人一人のよさや成長を積極的に見付け、児童理解に努めます。

②自尊感情を育み、互いを思いやる豊かな心の育成

○「いのちの教育」の推進

- ・道徳の授業で、いじめに関する資料を取り扱います。(年2回)
- ・ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニングを取り入れ、人と関わったり、コミュニケーションを図ったりする能力を育てます。

○児童が主体となる取組の充実

- ・石堤ふれあいサロンや一人暮らしの老人訪問等のボランティア活動を行い、自己有用感や自己肯定感を育みます。
- ・あいさつ運動や縦割り活動(清掃、各種行事)を通して、協力することや人を思いやることの大切さを学ばせ、人とよりよく関わる力を身に付けます。

③家庭や地域等との連携

- ・学校いじめ防止基本方針を公表し、保護者や地域の理解を得るよう努めます。
- ・育友会や学校評議員会等と協力して、地域ぐるみのいじめ防止対策を進めます。
- ・インターネットを使用する場合のルールやモラルについて保護者向けの研修会を実施し、ネットいじめの予防を図ります。
- ・年間を通して挨拶運動を励行し、感謝の気持ちを込めて挨拶ができるようにします。

(2) いじめの早期発見

ささいな兆候であっても、いじめではないかとの危機意識もち、軽視することなく、積極的に関わります。また、早い段階からチームを組んで的確に対応します。

①日常的な観察

- ・教職員は、授業中だけでなく、休み時間や昼休み、放課後、日記等から児童の様子や言動に気を配ったり、声をかけたりします。授業時は、担任が早めに教室等へ行きます。
- ・交換授業、出張授業や清掃時等、担任以外の目で見えた児童の気になる様子を担任に知らせ、情報の共有に努めます。また、迅速な報告・連絡・相談に努めます。

②アンケート調査

- ・いじめ実態調査「石堤っ子アンケート」を年4回行います。
- ・人権教育では、「大切にしようみんなの人権」リーフレットを各学級で適時活用します。

③教育相談

- ・児童全員へ定期的な個人面談を実施します。(年3回)
- ・保護者や地域からの情報を得るため、「いじめ相談窓口」を設け周知を図ります。

(3) いじめへの対処

いじめを発見した場合や通報を受けた場合、直ちにいじめを受けた児童の安全を確保し、いじめ対策委員会において組織的な対応を行います。

また、必要に応じて教育委員会や関係機関等と連携して対応します。

①いじめの発見・通報を受けたときの対応

- ・児童や保護者からいじめの相談や訴えがあった場合には、真摯に受け止め傾聴します。
- ・いじめられた児童やいじめを知らせた児童の安全を確保します。
- ・発見・通報を受けた教職員は一人で抱え込まず、直ちに、いじめ防止対策委員会で情報を共有します。
- ・いじめ対策委員会が中心となり、役割分担して速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実確認を行います。
- ・事実確認の結果は、教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童の保護者に連絡します。
- ・犯罪行為として取り扱われる可能性のある事案については、警察に相談又は通報し、連携して対応します。

②いじめられた児童及びその保護者への支援

- ・スクールカウンセラー等と連携し、いじめられた児童の心のケアや保護者への支援を行います。
- ・いじめられた児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう複数の教職員の協力の下、当該児童の見守りを行うなど、環境を整えます。

③いじめた児童への指導及びその保護者への助言

- ・いじめがあったことが確認された場合、いじめられた児童やその保護者への謝罪、いじめた児童への指導等について、保護者と連携して適切に対応します。
- ・いじめた児童への指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させます。
- ・いじめた児童が抱える問題等、いじめの背景にも目を向け、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、当該児童の健全な人格の発達に配慮した対応を行います。

④いじめが起きた集団への働きかけ

- ・いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題として捉えさせます。たとえ、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気をもつよう指導します。
- ・はやしたてるなど同調していた児童に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させます。

⑤ネット上のいじめへの対応

- ・ネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を避けるため、当該児童に指導するとともにその保護者に連絡し、直ちに削除させます。
- ・児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、警察に相談し、連携した対応をとります。

(4) いじめの再発防止

同じ児童が被害となるいじめが再発したり、いじめのターゲットが変わっていじめが続いたりすることを防ぎます。

また、事案について検証し、同様の事案が発生しないよう必要な対策を講じます。

①児童の見守り

- ・いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折に触れ必要な指導を行います。
- ・児童の変化を定期的に確認・検証します。必要に応じて支援策を修正し、支援を継続して行います。

②再発防止の取組

- ・お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切に作る指導等の充実に努めます。
- ・道徳や学級活動の時間にいじめに関わる問題を取り上げ、指導を行います。

3 いじめ対策委員会

(1) 構成員

- ・校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、養護助教諭、その他関係する教職員

※必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他関係機関や関係諸団体の代表者（人権擁護委員、民生委員・児童委員、保護司等）等を加えます。

(2) 役割

- ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施と進捗状況の確認、見直し。
- ・教職員の共通理解と意識啓発（校内研修等）。
- ・児童や保護者・地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取。
- ・いじめやいじめが疑われる行為を発見した場合の相談窓口。
- ・いじめ事案の調査と対応。

4 年間計画

月	取組	月	取組
4	・いじめ対策委員会① ・校内研修①（いじめ防止基本方針の共通理解）	10	・教育相談②（全員面談） ・石堤ふれあいサロン②
5	・いじめ防止基本方針の公表 ・石堤っ子アンケート調査①	11	・石堤っ子アンケート調査③ ・あいさつ運動②
6	・教育相談①（全員面談） ・あいさつ運動①	12	・人権週間 ・道徳の授業② （いじめに関する内容） ・いじめ対策委員会③ ・保護者アンケート調査② ・石堤ふれあいサロン③
7	・いじめ対策委員会② ・保護者アンケート調査① ・保護者向け情報モラル研修会 ・一人暮らし老人宅訪問	1	・石堤っ子アンケート調査④
8	・校内研修②（事例研究） ・石堤ふれあいサロン①	2	・教育相談③（全員面談） ・石堤ふれあいサロン④
9	・道徳の授業① （いじめに関する内容） ・石堤っ子アンケート調査②	3	・学校評価の結果集計、考察、公表 ・いじめ対策委員会④

5 評価と改善

- ・学校評価にいじめ防止対策に関する項目を設け、評価を行います。
- ・「いじめの問題への取組についてのチェックポイント（学校用）」を活用し、学校の取組について評価し、改善を図ります。
- ・本基本方針に基づく取組については、いじめ対策委員会において協議し、必要に応じて適宜見直しを行います。